

# 2024 年度 ニチキッズ盛岡もとみや保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年1月4日（土）～1月31日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月27日（木）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	「こころとからだを育てるプロジェクト 2024」、そして食育活動「日本うまいもん巡り」という年間活動を二本柱に、保育理念に基づいて、遊びの中から多くのことを学べるような保育を行った。特に「こころとからだを育てるプロジェクト 2024」は、毎月テーマを設けることで遊びの種類が広がり、今後の活動にも活かせるものとなった。
子どもの発達援助	子ども一人一人の発達や興味に合わせ、声掛けを工夫して行うことを心掛けた。また、子どものその日の様子を注意深く見守り、職員それぞれが自分にできることを考えた。集団での活動では全員の興味を集めて進めていく難しさを感じることもあったが、クラス間でのミーティングや全体の話し合いを持つことで、子どもがより前向きに楽しく過ごすための手立てについて共有することが出来た。
保護者に対する支援	園内で行われる活動をジャンル毎にコーナーを設けて、分かりやすく月ごとに掲示することで、保護者に言葉だけでなく視覚的にも子どもの様子を感じ取ってもらえるよう努めた。また、家庭と歩調を合わせて子どもの育ちを支えられるよう、家庭の様子と保育園での様子の相互共有を行った。
保育を支える組織的基盤	「風通しの良い職場を作る」というのは曖昧な表現で難しいが、職員の相互理解が進んだことで、相手に物事を伝えやすくなり理解も得られるようになった。また、内部研修や外部研修を充実させ、不適切保育撲滅に向け職員一丸となって取り組むことが出来た。今後も継続していくことが課題である。

総評
「不適切保育に繋がりがちな状況や言葉掛けについて、お互いに積極的に前向きに声を掛け合う」を念頭に置いて保育を行った1年だったが、研修などで繰り返し話し合うことで情報共有・相互理解を深め、安心・安全な保育を提供することを心掛けた。また、年間を通してテーマを持たせた活動を行い、これまでにない遊びや学びを子どもたちに提供することが出来た。これによって、ある程度定番化している遊びでもバリエーションによって新たなものに生まれ変わることが分かった。「学ぶ場」、そして「育つ場」としてより良い保育園にしていく意見交換を、今後も職員同士で取り組んでいきたい。